

主を隠れ家として

ゼパニヤ書2章

すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、主を求めよ。正義を求めよ。謙遜を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることであろう。(3)

前の章で主に立ち帰るように勧めたゼパニヤは、この章では神の審きはユダだけでなく、ペリシテ、モアブ、アンモン、エチオピア、アッスリヤなどにも下ろうとしていることを語ります。しかしゼパニヤは、神の審きだけを語るものではありませんでした。この章の初めでなお、急いで悔い改めるように迫っています。「主を求めよ。正義を求めよ。謙遜を求めよ」と。主の激しい怒りが臨む前に、罪を赦してくださいとさる主を慕い求めるように強く勧めます。その上で、「そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることであろう」と語ります。悔い改める者たちに対して主は隠れ家となり、審きから守ってくださいとさるということです。ゼパニヤの名前は「ヤハウエは隠した」あるいは「神に隠された者」という意味です。神に隠された者としてのゼパニヤが、民に対して神に隠していたくようにと勧めています。出エジプトの際、小羊の血が塗られた家の中にいる者たちは神の死の審きを逃れることが出来たように、主を隠れ家とする者たちは、その激しい怒りから逃れることができるのです。

わたしたちにとつての隠れ家、それは主イエスの十字架です(新聖歌二二〇番)。自らへりくだり、主イエスの十字架のもとに駆け込もうではありませんか。主の怒りが臨む日にも、主は御翼の陰にわたしたちを隠してくださいとさるからです。